

学校だより
5月号

つなしま



令和6年4月30日
横浜市立綱島小学校

【学校教育目標】 共に創り 共に歩み 共に輝く

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/tsunashima/>

教科書について～国語の教材を通して～

校長 金森孝子

新年度開始から約1か月。桜公園の木々も、みずみずしい若葉でおおわれるようになり、新緑の美しい季節となりました。「目に青葉 山ほととぎす 初鰹(はつがつお)」は、江戸時代の俳人、山口素堂の詠んだ俳句ですが、300年前の人々の季節の感じ方や生活の楽しみが、俳句を通して現代の私たちにも伝わってきます。17音の言葉で季節や心情、色彩や香まで伝えてしまう豊かさに、改めて驚きを感じてしまいます。俳句は、3年生から「季節の言葉」「俳句を楽しもう」などの教材で学習します。子どもたちは、好きな俳句や短歌を選んだり暗唱したりすることに比較的喜んで取り組みます。

今年度、小学校で使う教科書が新しく採択されました。教科書は約4年に一度、社会の変化等に合わせて大きく内容の見直しを行います。また、同じ出版社であっても教材や配列が変わったり、教科によっては出版社も変わったりすることから、きょうだいで違う教科書で学習することもあります。現在、私は、新しい教科書のページをめくりながら、どのような教材や題材が載っているのか、どのように変わったのかを楽しみながら見るようにしています。今回の改訂では、どの教科の教科書でもQRコードが増え、自分の端末で自分に必要な映像や資料を見ることができます。まさに、GIGAスクール4年目の教科書です。

私は、教科書が改訂されると、学習時間の最も多い教科「国語」の教科書を購入し、時間のある時にじっくりと読むことにしています。そして、「えっ、『〇〇〇』(教材名)、なくなったの?」「『〇〇〇〇』(作家・本)が入ってうれしい」と独り言を言ったり、「これ、私が授業したいな」などと考えたりして楽しんでいます。また、以前との違いを発見しては、教職員に伝えるようにしています。長年定番教材だった1年生の最初の説明文「くちばし」が「つばみ」に変わったことは驚きました。3年生・5年生では、冒頭の物語が変わりました。5年生の「作家で広げるわたしたちの読書」では、ミハエル=エンデ作「モモ」が新しく教材として取り上げられていました。「本を丸ごと読書させたいのかな?」と考え、早速「モモ」を本棚から引っ張り出して読んでいます。6年宮沢賢治作「やまなし」は、私が小学校の頃からの教材で今回も残りましたが、黒井健さんの挿絵に変わり、一層魅力を増したものになりました。本当に息の長い教材です。変わらない教材の代表格は、古典や俳句・短歌、詩歌などの伝統的な言語文化の教材です。5年では「枕草子(冒頭)」「御伽草子(浦島太郎の一部)」論語や漢詩などの中国の古典も学びます。

学校教育を取り巻く環境が大きく変わる中、教科書にも「不易・流行」があります。子どもたちが、今後よりよく生きるための力を、新しい教科書を効果的に活用しながら、伸ばしていきます。

令和6年度 綱島小学校 第1回学校運営協議会

4月22日(月)、西校舎1階に移動した新PTA会議室にて、第1回学校運営協議会を行いました。昨年度会長の小池幸次郎様が退任され、今年度から、猿渡功様に会長をお願いすることになりました。また、学識経験者として、前校長 徳江武司様にも加わっていただきました。今回、教育委員会からの委嘱状を交付し、委員一人一人からご質問やご感想をいただきました。教育活動の充実、顔の見える関係の構築、交流の活性化などのため、発足3年目の協議会を計画的に実施していきます。 ※委員として9名、顧問として町会長様4名の皆様にお力をお借りします。

